

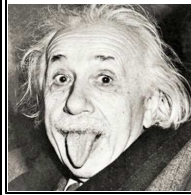
学校だより
第52号



文責
校長 都々木

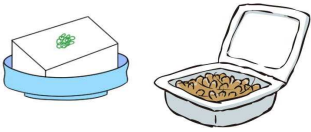
「国語」っておもちゃじゃない!

多くの生徒は「勉強は嫌い」と思っているのではないかと想像します。では、空想や夢想することは？恐らく空想・夢想をしたことのない人はいないはずで、あれこれ考えることはとても楽しいことなのです。アインシュタインは、頭の中で空想・夢想を繰り返し、「思考実験」と言います。有名な相対性理論を完成させました。「不思議だ」「何故だろう」と考えることは楽しいことだとは思いませんか？



「納豆」と「豆腐」

両方とも大豆が原料の食品ですが、豆を（型に）納める（入れる）と書いて、「なっとう」。豆を腐らせる（発酵）と書いて、「とうふ」。



おかしいと思いませんか？豆を型に納めるのは「豆腐」で、豆を腐らせる（発酵）のは「納豆」ではないか！
これにはちゃんと答えがあります。Googleで調べる前に、よく考えて自分なりの答えを出してみてください。

★大豆について

大豆と枝豆は同じで、プロテインの原料になるほどタンパク質豊富です。

心に残るいい話

コロナ禍の影響で、仏作家カミュの『ペスト』という本が売れているといわれています。カミュは高校生の頃サッカーをしていて、「私に人間の倫理と義務を教えてくださいましたのはスポーツだ」と語っています（RS21「余録」）。
中総体、高総体、甲子園と軒並み中止となりましたが、勝つことだけがスポーツの目的ではないということをお話してくれる話を「天声人語」から紹介します。

「世紀の誤審」で幻と消えた完全試合の話には、一服の清涼剤の趣もある。

完全試合とは、打者を一人も塁に出さず優勝すること。投手の大勲章で、大リーグ史上でも20回しか記録がない。タイガースのガララーガ投手は9回2死まで走者を許さず、あと一人に迫っていた。



「最後の打者」は内野ゴロを打つ。誰もアウトを確信したが、まさかの「セーフ」に偉業は消えた。録画を見ると明らかなる誤審である。審判は非難の集中砲火を浴びた。だがガララーガ投手は彼をかばった。

「完全な人間はいない」という言葉がいい。次の日、球場でさめざめと泣く審判の肩を抱いて、握手を交わしたそうだ。「審判も間違える」ことを前提にゲームが成り立っているのを、よく分かっているのだろう。ずいぶんと男を上げたのではないか。

元横綱の大鵬を思い出す。連勝が止まった一番は、やはり「世紀の誤審」と言われる。だが大鵬いわく「物言いのつくような相撲をとった横綱が悪い」。時は流れたが、記憶にとどめる方もおられよう。



鍛え抜いた身体に人となり輝きを添える。古今変わらぬスポーツの美しさであろう。

（雑感）今回は「チョコキ」の話▼チョコキと言えば「はさみ」。はさみは、今から三千年程前にギリシャで使われ始め、日本には一千四百年位前に中国から伝わった▼はさみは紙や布を切るのに使われるが、紙は今から五千年位前にエジプトで発明され、「パピルス」と呼ばれていた。これは英語の「paper」の語源になっている▼紙が五千年前、はさみが三千年前。布や紙が先に発明されて、それを簡単に上手に切りたいという必要性からはさみが発明された▼同じ切る道具に缶切りがある。缶切りは缶詰を開けるのに使うが、缶詰と缶切りはどちらが先に発明されたのか？▼もちろん缶詰が先で、一八一〇年イギリスのピーターという人が発明した。缶切りは、一八五八年アメリカのワナーという人が発明した。缶切りが発明されるのに約五〇年かかっている。それまでは、かなづちのみで開けたり、ナイフでこじ開けたりしていたそうだが、何とも不便な事だったろう▼人間は「こんな物があったらいいなあ」と思う物を次々と発明し生活を便利にしてきた。『必要は発明の母』ということわざもある。身の回りに「こんな物があったらいいなあ」と思う物の発明に挑戦してみてくださいどうだろう▼車のワイパーってジャマだと思いませんか？（次回はパーの話）

子どもに伝えたい「いい言葉」

呪いは「いい」のよいこと
ねむらに帰る

毎日新聞「余録」にあったことわざ。他人を呪う言葉は自分に返ってくるの意味。SNSで言葉を発する前に思い出して欲しい。